



デメテル
Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.54

Newsletter of Gunma Museum of Natural History 2012.夏

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。



【地球に残るフロンティア】

深海はどんなところなのでしょう？ どういった生き物たちが棲んでいるのでしょうか？ 深海の研究がはじまったのは今からおよそ140年前のことです。私たち人類は、月面に降り立ち、そして火星探査も成功させてきました。しかし、私たちが住む地球上には、私たちが見たこともない世界が数多く存在しているのです。深海もその一つです。今回の企画展では、深海の知られざる素顔に迫ると共に、深海探査の歴史について紹介します。この夏、深海をイメージした企画展示室で、涼しい雰囲気の中、深海の世界をぜひお楽しみください。きっとあなたの知らない深海生物に出会えると思います。

イベント情報

自然教室①「チリメンモンスターをゲットしよう」

日時:7月15日(日) 13:30~15:30
対象:小学生以上(小学3年生以下は保護者と一緒に参加)
定員:30名(先着順) 参加費:50円(保険料)
申込方法:1か月前の9:30から電話で申し込み

講演会①「知られざる深海の世界—現生・化石ウミユリを例に—」

日時:8月5日(日) 13:30~15:30
講師:大路樹生(名古屋大学総合博物館教授)
対象:小学生以上(小学生は保護者と一緒に参加)
定員:100名(先着順)
参加費:無料
申込方法:1か月前の9:30から電話で申し込み

自然教室②「ペーパークラフトで深海の世界をつくろう」

日時:8月12日(日) 13:30~15:30
対象:小学生以上(小学3年生以下は保護者と一緒に参加)
定員:30名(先着順) 参加費:50円(保険料)
申込方法:1か月前の9:30から電話で申し込み

講演会②「深海の生態系」

日時:8月26日(日) 13:30~15:30
講師:北里 洋(海洋研究開発機構領域長)
対象:小学生以上(小学生は保護者と一緒に参加)
定員:100名(先着順)
参加費:無料
申込方法:1か月前の9:30から電話で申し込み



二階Cコーナーのカウンターでは、学芸係の監修のもと、解説員が企画、制作した展示をご覧いただいています。解説員が常駐しているため、展示について、詳しく解説を聞いていただけるのが特徴です。生物を観察したり、標本に触れたり、お客様に体験していただけるコーナーがあるのも、カウンター展示ならではの魅力です。24年度の春の展示ではダンゴムシを紹介しています。ダンゴムシは見つけやすく、子どもたちにとってもなじみのある生物です。ダンゴムシの体のしくみや生態について興味を持っていただき、観察するきっかけとしてほしいです。寒い時期から企画をしていたので、生体展示のためのダンゴムシがなかなか見つからなくて困りましたが、間に合いました。年に4回ほど展示を替えており、いずれも身近な自然についてご紹介しています。お気軽にお立ち寄りいただければと思います。

(展示解説員 菊地如子)

……… これからの常設展示Cコーナーカウンター展示 ……

平成24年度	春	夏	秋	冬
展示テーマ	ダンゴムシ	食虫植物	変形菌	プラナリア
主な展示内容	ダンゴムシの生態 甲殻類の仲間	食虫植物の生態・形態 食虫植物と大陸移動説	変形菌と遊ぼう いろいろな変形菌	プラナリアさがし プラナリアの分裂・再生

*展示内容は変更する場合があります。

自然のコラム
「陸上にすむ巻貝」



ウスカワマイマイ

巻貝といえば、サザエやタニシなど水中で生活するものを連想するかもしれませんが、ところがカタツムリも、陸上で生活する巻貝です。こうした巻貝のなかまを陸貝と呼びます。

陸貝は水中から陸上へと進出し、生息場所を広げました。これは、鰓から肺へと呼吸のしくみが変わることによって可能となりました。また柔らかい体を乾燥から守るために、湿った場所を好み、体の表面を貝殻や粘液で保護しています。ナメクジには殻が見られませんが、これも進化の過程で殻を失った陸貝です。

私たちに身近な群馬の野山にも、殻の大きさが数mmのものから数cmのものまで、様々な陸貝が生息しています。こうした陸貝たちを観察するには、活動が活発になる夏場がチャンスです。身近な自然をいつもとは違う角度から見てみませんか？秋には自然史講座やチャレンジ講座も開催いたします。

(学芸係 杉山直人)



オカチョウジガイ



オカモノアラガイ



ヒカリギセル



ニッポンマイマイ

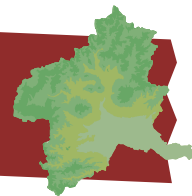


ミスジマイマイ



オオケマイマイ

群馬県レッドデータブック改訂



県内の絶滅のおそれのある野生生物を解説した「群馬県版レッドデータブック」のうち、植物版が今年4月に改訂され、発刊されました。初版の植物レッドデータブックは2001年に発刊されており、11年ぶりの改訂になります。絶滅のおそれの深刻さを示すランクは環境省と同じものが用いられたこと、可能な種については株数と減少率から定量的にリスクが評価されたことも改訂にあたっての大きな変更点です。レッドデータブックに記載された植物種の数は初版の382種から633種に増えました。



(写真1)群馬県レッドデータブック植物編 2012年改訂版

なぜ大幅に掲載種が増えたのでしょうか。里地・里山の管理が放棄され、大型の植物との競合の結果消えた植物、開発や圃場整備によって消えた植物、販売目的に盗掘された植物、外来植物との競合や交雑により減少した植物、さらに増えすぎた野生動物に食い尽くされた植物が過去10年間に増えたことが最大の原因です。このほか、県内で新たに確認された植物や分布の変化が明らかになった植物の存在も掲載種が増えた理由としてあげられます。

当館が開館して10年以上経過し、過去の標本の蓄積と分類学的検討も進みました。県内初記録の植物の中には、当館収蔵標本から過去に県内に分布していたが現

在は絶滅した植物も含まれます。また、標本を最近の分類学の見解に従って見直しを行った結果、初記録となった植物もあります。これらは、標本がなければ検証さえできなかったことでしょう。さらに過去と現在の分布を比較する上で、当館収蔵の標本が重要な役割を果たしたことは言うまでもありません。



(写真2)リスクが高まり絶滅危惧IA類に再評価されたアズマギク

今回の改訂で草地を始めとする里地・里山の植物の衰退がはっきりわかりました。また、動物食害や外来種との競合・交雑が新たな脅威として深刻化しつつあることがわかりました。一般の方々の絶滅危惧種への関心も高まり保護と復元の動きも一部で見られますが、絶滅危惧種を取り巻く環境は多くの場合、悪化しています。また、レッドデータブックをもとに野生生物を保護する条例や規則は群馬県にはありません。今回のレッドデータブック改訂をきっかけにより多くの方々が植物がおかれた状況に関心をもち、また、保護のための制度が充実することを願います。レッドデータブックは情勢の変化や分類学の進歩とともに更新されます。当館は今後もその情報収集と証拠標本集積の中核としての役割を担っていきます。さらに、一般の方々からの貴重な情報もリスク評価の精度を向上させるために役立っています。本誌の読者の皆様からの情報をお待ちしています。

(学芸係 大森威宏) (写真3)新たに絶滅種に加えられたサギソウ



[シリーズ博物館周辺のキノコ その1]

不思議な形～アミガサタケ～

博物館の周辺には、落葉広葉樹林や針葉樹林、竹林などがあります。そこでは、1年を通して様々なキノコに出会うことができます。もうすぐ5月というころ、遊歩道沿いに植えられたアベリア(スイカズラ科の低木)の根元に生えているアミガサタケ(写真1)に出会いました。スコップを片手に採集していると、すれ違う人々に、「それは何ですか。」と訪ねられました。「キノコです。博物館の周りにもいろいろなキノコが生えるんです。」と答えると、「食べられるのですか?」と皆さん聞いてきます。アミガサタケは優秀な食菌で、ヨーロッパでは「モリーユ」と呼ばれ、春の訪れを告げる味覚として親しまれているキノコです。ところが、日本ではほとんど食用にされた歴史のないキノコです。

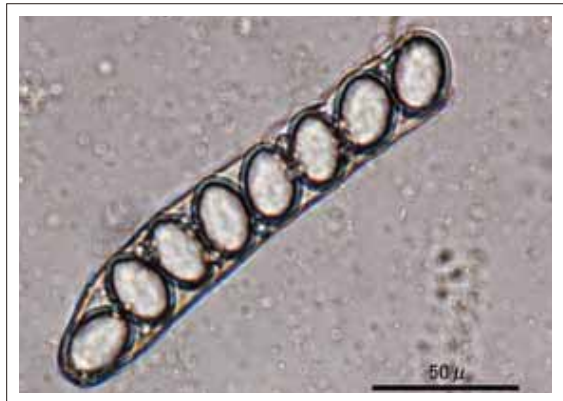
アミガサタケは、頭部に深い網目状のくぼみがあり、とても不思議な形をしています。キノコと聞くと、シイタケのように半球形の傘を持つ形をイメージするでしょう。しかし、アミガサタケのようにキノコの形は実に多様で、それぞれのキノコが子孫を残すのに最も適した形に進化してきたと考えられています。アミガサタケは子のう菌と呼ばれる仲間のキノコで、頭部のくぼみに多数形成される袋(子のう)の中に8個の子のう胞子を生じます(写真2)。この子のう胞子は風で運ばれ、子孫を残していきます。

キノコは身近な所に結構生えています。何げなく歩いていると見過ごしてしまうかもしれませんが、身近な自然に少し気を付けて見ると、形や色や大きさも様々なキノコに出会い、楽しませてくれます。

(学芸係 篠原克実)



(写真1) アミガサタケ



(写真2) 子のう

チャレンジ講座



時間にゆとりのできはじめた団塊世代を対象としたチャレンジ講座は、ご自身の興味・関心を伸ばしていただき、さらには、新たな自分発見をしていただくために開設されたものです。年間3コースを設定しており、1コース3日間です。少人数精鋭で、当館学芸職員と一緒に活動し、ゆっくり、じっくり自然と触れあえます。今年度は、もう既に植物コース(スマレの観察と分類)は、終了しました。スマレ科の同定の仕方を学習した後、渋川市伊香保町水沢を訪れ、1日かけてスマレを観察しました。今後、9月には貝類コース(群馬の陸貝・淡水貝調査入門)、10月には、昆虫コース(昆虫採集と標本製作)を行う予定です。1か月前から電話受付を行います。受け付け開始と同時に定員になってしまう場合もあります。当館イベントカレンダー等で受付日をチェックし、ふるってご参加ください。

(教育普及係 小須田健志)



H23 ネズミコース



H23 化石コース



H24 植物コース①



H24 植物コース②



H24 植物コース③

利用案内

■開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)

■休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)

■観覧料	一般	高校・大学生
常設展のみ開催	500円	300円
第40回企画展開催時 (H24.7.14～9.2)	700円	400円

※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介護者1名は無料
※有料者20名以上は団体料金で2割引となります

群馬県立自然史博物館だより Demeter No.54

編集・発行 群馬県立自然史博物館
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250
ホームページ
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>